

【つかえそうなモノから使える物へ】

突然ですが世の中で最も役に立つ防災グッズとは？と問われれば…どうでしょうか？

多くの方が『スマートフォン』と答えるのではないのでしょうか。

実際に当社でもそのように考えています。しかしながら、その『スマートフォン』も万能ではありません。スマホの電池容量という縛りがありその縛りは、停電時に致命的なものになってしまいます。

そこで今回の新型のラジオライトではスマートフォンの充電を強化した2機種を販売します。そしてそれら2機種の最大の特徴が、いわゆる手回し充電機能を搭載していない事です。その事を詳しくお話する前に、まず当社のラジオライトに手回しハンドルを搭載した経緯からお話しさせていただければと思います。

【弊社とラジオライトの歩み】

弊社では、1991年にレジャー・アウトドア向けのラジオライトの発売を開始しました。

ところが、95年に発生した阪神淡路大震災を契機に、防災向けのラジオライトとして製造販売してきました。

その後、2001年に手回し充電タイプを搭載したラジオライト、『ソーラーダイナモラジオライト』を発売。特に2004年に発売した社内デザインの『マルチパワーステーション』でグッドデザイン賞を受賞。以降、手回し充電タイプのオリジナルラジオライトを多数販売してきました。



90年代のラジオライト 『ソーラーダイナモラジオライト』 マルチパワーステーション2

【そもそもなぜ、ラジオライトにダイナモが必要だったのか？】

1990年代の防災備蓄品といえば、カンパンと水、ラジオと懐中電灯が定番でした。そんな中、営業担当者から開発担当のもとへ、こんな相談がありました。

『カンパンと水の保存期限が約5年、乾電池は品質保持期限が3年、これらを防災セットとして備蓄する際、3年で総入れ替えする必要があり、水と乾パンがもったいない。どうにかならないか？』（※当時は、近年よく言われるローリングストックではなく、定期的に全部入れ替える方法が主流でした）

という相談でした。

個人のお客様であれば、ご家族人数分の電池を変えるのに問題は発生しないでしょう。ただし、施設や法人のお客様の場合、関係者全員分を防災の担当者が、乾電池だけをすべて入れ替えるのは、現実的ではありませんでした。

そこで、この2年間の差を埋めるべく、電池がなくともダイナモによる手回し発電機能により、ラジオとライトを使用可能な機能を搭載した『ソーラーダイナモラジオライト』を開発しました。（※当時は、ライトにLEDではなく、豆電球が主流で消費電力も激しく、1分回して90秒程度しか点灯せず、ダイナモはラジオを聴くことを主な目的としていました。）

その後、2004年に発売のマルチパワーステーションでは、ライトを白色LEDにし、携帯電話充電機能を搭載するべく、ダイナモの出力をアップしました。その際に、女性や子供でも数分程度回せる負荷として、出力が4.5V400mAの発電機が選ばれました。